

総論

満点	50点	目標得点	32点	試験時間	60分	偏差値	70
大問数	6	小問数	46				
【解答形式】		選択式	30/46問	記述式	16/46問	論述式	0/46問
【問題難易度】		C	7/46問	B	19/46問	A	20/46問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：正誤問題が増加。「2つ選べ」という早稲田特有の問題も2問から3問に。
- 2：原始時代の問題が復活。奈良時代は律令、中世は文化史、近世は外交史。
- 3：最後の文化史の問題が、美術史から学問・教育史の方向に。

こんな力が求められる！

正誤問題全体では11問から16問となった。細かな知識を問うものもあり、詳細に学んで正誤判定できる力が必要である。西暦や場所なども意識的にできるだけ多く覚えておくと、正誤の判定材料に使える。

奈良時代は必ず出題されるので、すべての分野において高得点を取れるようにしておきたい。同様に江戸時代も毎年さまざまなジャンルからの出題が見られるので、すべての分野において自信をつけておくべきだ。

近代史は比較的知識問題が多いので、細かい所まで押さえてくる早大受験生との争いにおいて、ケアレスミスが致命的となる。また今回は近代史において未見史料が出たが、これは頻出史料を知っていれば類推で解けた。史料対策もしっかりしておくべきである。

文化史は美術史からの出題もまだあるので、美術史はもちろん、書物名を中心とした学問史・教育史のような文化史も今後の出題傾向の可能性として、よく学習しておきたい。

大問別分析

【I】

予想配点	7/50 点	時間配分の目安	13/60 分
出題分野・テーマ	原始時代と北海道史		
出題形式	選択1問、記述1問、正誤5問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：(1)C (2)B (3)B (4)A (5)C 2：B 3：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：3月期①1・3回，5月期3回，1月期2回 センター：4月期4回，夏期センターレベル文化史1回		

●本大問の特徴・概要

昨年度はあまり出題されなかった旧石器・縄文・弥生・古墳文化を中心とする問題である。正誤問題をしっかり見極めて出題する必要があるため、難易度は高い。教科書レベルでも詳細に理解をしておかないと、正誤の判定は難しいであろう。

●注目すべき小問

1(1)に関しては、オを正解と考えていると思われるが、イも正解の可能性がある。(3)は早稲田の日本史で類題を行った。(5)もイを正解と考えていると思われるが、オも微妙である。擦文文化とコシヤマインはできなければならない。

【II】

予想配点	8/50 点	時間配分の目安	10/60 分
出題分野・テーマ	律令国家における民衆の負担		
出題形式	選択1問、記述2問、正誤5問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：A 2：A 3：A 4：B 5：A 6：A 7：B 8：B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：3月期①4回，3月期②1回，冬期社会経済史I1回 センター：3月期①2・3回，冬期社会経済史I1回		

●本大問の特徴・概要

早稲田大学文学部で必ず出題される奈良時代だが、今年は容易であった。全問正解を目指したい。正誤問題も、民衆の負担を正確に暗記しておけば正解できる問題である。

●注目すべき小問

7は「宮門の警備」という問題文から正解を導きたい。8は消去法で選べるようにしよう。

【Ⅲ】

予想配点	9/50 点	時間配分の目安	11/60 分
出題分野・テーマ	中世の軍記物語		
出題形式	選択 2 問、記述 3 問、正誤 1 問、並べ替え 1 問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : B 2 : B 3 : A 4 : B 5 : C 6 : B 7 : C		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高 3 履修分に限定 ハイレベル・総合：4 月期 1・3・4 回，5 月期 1 回，夏期文化史 1 回，1 月期 1 回 センター：3 月期② 4 回，4 月 1・2 回，夏期センターレベル文化史 2・3 回		

●本大問の特徴・概要

早稲田大学文学部の中世の問題は、社会経済史・文化史、そして戦乱の問題が多い。これらは細かい所まで把握しておく必要がある。今年は文化史に関する問題であった。今年は軍記物であったが、連歌集や日記など、書物名の出題は多いので、より多くを学んでおくとよい。

●注目すべき小問

- 2 は西暦とともに、治承・寿永の乱の流れを把握していることが重要で差がつく。
- 4 の観応の擾乱も、しっかり理解していることが選べるポイントとなる。
- 6 は恩賞奉行という言葉を知っていると容易だが、時代を考えて答えられるとやはり差がつく。

【Ⅳ】

予想配点	9/50 点	時間配分の目安	9/60 分
出題分野・テーマ	江戸初期の外交		
出題形式	選択 1 問、記述 3 問、正誤 3 問		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 1 : B 2 : B 3 : A 4 : B 5 : B 6 : C 7 : A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高 3 履修分に限定 ハイレベル・総合：6 月期 2・3 回，7 月期 1 回，冬期対外交渉史 I 2・3 回，1 月期 2 回 センター：5 月期 3・4 回，6 月期 3 回，冬期対外交渉史 I 2・3 回		

●本大問の特徴・概要

早稲田大学文学部の江戸時代は、政治・外交・社会経済史と多岐に渡るので、どの分野が出題されてもできるようにしておきたい。とくに外交は、学校の教科書の欄外に載っているようなことまで出題される。

●注目すべき小問

- 2 の海禁という概念は、しっかり習っているかがポイント。
- 4 に関連して「与論島以北が薩摩藩領になった」というのも、難関大では必要な知識である。
- 5 の解答には細かな知識が要求される。
- 難問の後の 7 は、思わず不正解をしまいそうなので、冷静に解く訓練をしておくことが大事。

【V】

予想配点 10/50 点	時間配分の目安 9/60 分
出題分野・テーマ 立憲政治の発達	
出題形式 選択5問、記述4問、正誤1問	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：B 2：A 3：A 4：A 5：B 6：A 7：A 8：A 9：B 10：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：夏期近現代史Ⅰ1・2・3回，夏期近現代史Ⅱ1・2回，12月期3回 センター：7月期3・4回，9月2・3・4回，12月期3回	

●本大問の特徴・概要

早稲田大学文学部の近代史は、ここ最近記述あるいは選択問題が多いので、知識量を増すことで得点しやすい。今年も全問正解者が多くいたと思われる。戦後史からの出題もあるので、しっかり学習しておくべきである。

●注目すべき小問

- 5の類題は直前特訓の立教の日本史でも行った。
- 9の四大政綱も、早稲田ならしっかりできないといけない。

【VI】

予想配点 7/50 点	時間配分の目安 8/60 分
出題分野・テーマ 歴史研究における資料の意義	
出題形式 選択3問、記述3問、正誤1問	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：B 2：B 3：C 4：A 5：A 6：C 7：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：夏期文化史5回，10月期2・3回，1月期1回 センター：夏期センターレベル文化史4回	

●本大問の特徴・概要

主に江戸時代の化政文化についての出題であった。毎年文化史からの出題なのだが、以前は絵画史の出題が目立ったのに対して、今年は学問・教育史の傾向にあった。来年度以降もここは学習しておくとうい。

●注目すべき小問

- 1の坪内逍遙は直前特訓の早稲田の日本史で触れた早稲田に関連のある人物であるが、漢字がしっかり書けたかどうか。
- 2の小田野直武は直前特訓の立教の日本史で演習を行った。
- 3の平賀源内の正誤は難問。
- 6の新元会はできなくていいだろう。